

1. 活動日時

令和5年5月9日(月)7:15-16:00

2. 活動場所

正院町周辺の在宅避難者宅

3. 被害状況（5月9日正午現在）

- ・人的被害：死者1名、重傷2名、軽傷31名
- ・住宅被害：全壊9棟、半壊9棟、一部損壊452棟
- ・5時14分珠洲市を中心としたマグニチュード4.9最大震度4の地震が発生
地震の深さ10キロメートル 6時 揺れによる被害の報告なし
- ・震度1以上87回

4. 天候

晴天 最高気温19℃ 最低気温7℃

5. 活動の実際

7:30 輪島市ホテル出発

9:00 保健医療福祉調整本部会議に参加した。

【先日の課題共有】

- ・避難所3箇所(宝立公民館1名、正院小学校14名、蛸島公民館1名と家族2名)以外閉鎖
- ・入浴ニーズは、14時に車で入浴施設に搬送 運転手調整中
- ・避難所1ヶ所の継続に関する医療支援のニーズなしと報告あり。

【医療班の役割分担】

- ・避難所での健康管理及び環境調整班→市役所職員1名で対応
- ・巡回班→県・市保健師、ケアマネ、災害看護学会、外部NGO看護師など

10:00 【巡回の活動】

在宅避難者の状況把握とニーズ調査のため、独居高齢者10軒訪問した。10軒の内4軒は不在であった。多くの在宅避難高齢者は家族やヘルパーの協力を得て、家の片付けを行っていたが、中には、建物危険度判定が赤の家や、玄関は開くものの足の踏み場がないくらいに、物が散乱している状態の家があり、自宅に戻れない状況下の被災者も確認した。その他、90歳代の被災者で、後片付け中に疲労と脱水により、入院となっていたという事例もあった。体調に関して震災前後の変化はないと言われるものの、不眠症状が共通点として多くの被災者に生じていた。また、自宅で暮らせない方に今後について尋ねた所「自宅の再建はできない。子供と暮らすかどうかどうするか子供次第。」と先のことはまだ考えられないと言われていた。

12:30 酒井隊員と合流し、巡回を行う。

15:00 健康増進センター到着 県保健師に申し送り

16:00 酒井隊員に申し送り

17:00 花房、作川隊員活動終了

6. 考察

避難所は10ヶ所から3ヶ所に集約された。正院小学校での避難者は、ほとんどが自宅に戻れない方であるため、このままの人数で推移すると考えられる。避難所生活が継続することにより、今後心身のストレスが増大し健康障害が生じやすくなるため、異常の早期発見や、避難所内の環境整備などの観点から、看護が担う役割は重要であると考えられる。

個別訪問では、在宅で支援を受けながらようやく生活をしている一方で、地震により扉の立て付けが悪くなっている等、生活における住環境が変化しているため、より危険リスクが高くなっていくことも予測される。したがって、現在の支援サービス以外にも看護師の巡回訪問がより重要と考えられる。また、個別訪問の対象者把握に関して、準備に予想以上の時間を要しており、行政の業務負担が大きくなっている。さらに、マンパワー不足により全戸数訪問スケジュールの見通しが立っていない状況にあるため、外部支援者にてできるサポート体制を考える必要がある。地元の支援者をサポートすることが被災者の安心につながる重要なポイントであるため、県内の医療系学生などのボランティアを拡大していくことも今後の検討課題であると考えられる。

7. 課題

- 1) 正院小学校（避難所）における看護支援体制の継続
- 2) 全戸訪問のための継続的な支援体制の検討
- 3) 住民の安心につながる地元の支援者のラウンド体制
- 4) 今後の居宅について考えることが出来る情報提供
- 5) 地元の人的資源を活用した支援体制の構築

8. 参考写真



ボランティア希望の情報提供を配布する様子



聞き取りの様子